

BCCWJ における敬語形式の使用実態

小木曾智信 (国立国語研究所言語資源研究系)[†]

神田龍之介

近藤明日子 (国立国語研究所コーパス開発センター)

Survey on the Usage of Honorific Forms in the BCCWJ

Toshinobu Ogiso (National Institute for Japanese Language and Linguistics)

Ryunosuke Kanda

Asuko Kondo (National Institute for Japanese Language and Linguistics)

1. はじめに

現代日本語には敬語形式のバリエーションが多く、尊敬語では「ーなさる」「御¹ーなさる」「御ーになる」「御ーだ」「られる」、謙譲語では「御ーする」「御ーいたす」「御ー申し上げる」等の形式が存在する。しかし、これらの敬語形式が、実際にどのような頻度で用いられているのか、どのような要因によって選択されているのかは十分に明らかでない。コーパスを用いた大規模な用例調査も行われていない。

本発表では、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)を用いて、尊敬語・謙譲語 I の形式を中心に、(1) 使用域 (レジスター), (2) 命令形か否か, (3) 元となる動詞語彙の違い, の3つの観点から使用実態の全体像を調査する。また、やりもらい・恩恵を意味に含む「ーいただく」「ーくださる」については、「ーいただく」と「ーくださる」の使い分け、「検討いただく」「応募ください」のような「御」の不使用, などの問題があるため、追加して、使用実態の調査・記述を行う。

以上の基礎調査を通して、敬語形式の選択要因を探り、今後の研究の足がかりとする。

2. 現代日本語の敬語形式と調査対象

現代日本語における主要な敬語形式としては「ーなさる」「御ーになる」、「御ーする」「御ーいたす」などの文法的な形式や、助動詞「れる」「られる」の尊敬用法、「召し上がる」「拝読する」のような語彙的な敬語が挙げられる。

本発表ではこのうち、文法的な (非語彙的な) 形式に注目し、表 1 に挙げた諸形式を調査対象とした。なお、助動詞「れる」「られる」も文法的な形式の一つであるが、受身・可能などの他の用法を持ち、その区別が BCCWJ ではアノテーションされていないため対象外とした²。

表 1 調査対象の敬語形式

タイプ	形式
尊敬語	ーなさる
	御ーなさる
	御ーになる
	御ーだ
	御ーくださる
	ーてくださる
謙譲語	御ーする
	御ーいたす
	御ー申し上げる
	御ーいただく
	ーていただく

[†] toigso@ninjal.ac.jp

¹ 「御ーなさる」は「ー」部分の語の語種に応じて「おーなさる」と「ごーなさる」の両形式を含む。他の「御」を含む形式も同様である。

² BCCWJ における「れる」「られる」の用法分類については、小山田・柏野・前川 (2012) によるコアデータ (及び国会会議録の一部) の調査がある。この調査結果に基づき 3. 4 節で他形式との比較を行う。

3. 敬語形式の使用頻度

3. 1 調査方法

表1に挙げた形式の用例を BCCWJ から取得して、各形式の使用頻度を集計した。用例の調査は、

- 1) BCCWJ の短単位を格納したデータベースから調査対象の用例を取得
- 2) ダウンロードしたデータを表計算ソフトにインポート後、手作業でクリーニングという手順で行った。以下、それぞれの方法の詳細を述べる。

1) データベースからの用例の取得

BCCWJ のデータが格納された「形態論情報データベース」(小木曾・中村 2011) の短単位テーブルに対し SQL 文を発行してデータを取得した。この短単位データは BCCWJ DVD 版の短単位データに相当する。SQL 文の一例として「御-なさる」の例を挙げる³。

```
SELECT register, coreFlag, sampleID,
dbo.fnGetContextPre(c.orderID, c.sampleID, 30) AS 前文脈, c.orthToken AS キー,
dbo.fnGetContextPost(c.orderID, c.sampleID, 30) AS 後文脈,
c.lemma, c.lForm, c.formBase, c.pos, c.goshu, c.cForm, c1.cForm AS 形式活用形
FROM corpus AS c
LEFT JOIN corpus as c_1 ON c_1.sampleID = c.sampleID AND c_1.orderID = c.orderID-10
LEFT JOIN corpus as c1 ON c1.sampleID = c.sampleID AND c1.orderID = c.orderID+10
WHERE c_1.lemma = '御' AND c1.lemma = '為さる'
```

このように、レジスターやサンプル ID などの出典情報と、出現箇所の KWIC、元となる動詞(サ変動詞の場合は語幹)部分の形態論情報、さらに形式全体の活用形を取得している。

2) データのクリーニング

SQL 文で取得したデータを表計算ソフトにインポート後、次のような調査対象外の例を手作業で除外した。

- ・調査対象以外の表現が外形上、偶然一致したもの
- ・「-」部分が動詞ではないと考えられるもの
 - ・「-」部分がサ変動詞語幹にならない語であるもの
 - ・「-」部分が連体修飾を受けるもの
- ・「御-」が丁寧語や美化語であると考えられるもの、固定的な言い回しとなっているもの
例:「お辞儀する」「お掃除する」「お稽古する」「お酌する」「おめかしする」「おみそれする」

このほか、次のような用例も集計から除外した。

- ・形態素解析の誤解析にもとづくもの
- ・敬語法に言及しているメタ的な用例

なお、現時点では、クリーニングに不十分な点があり、今後数値が変動する可能性がある。

3. 2 各形式のレジスター別粗頻度

上記の方法によって確認した各形式のレジスター別の用例数(粗頻度)を表2に示す。総計約14万例、尊敬語が約8.6万例、謙譲語が約5.4万例であった。レジスター別にはOL(法律)に全く現れないことが目を引くが、敬語形式が法律文になじまないことは自明であろう。

³ dbo.fnGetContextPre 及び dbo.fnGetContextPost は文脈を取得するためのユーザ定義関数である。なお、わかりやすくするために列名の一部を変更した。

表2 各形式のレジスター別用例数(粗頻度)

		LB	OB	OC	OL	OM	OP	OT	OV	OW	OY	PB	PM	PN	総計
尊敬語	てくださる	6116	1081	29199	0	774	3785	49	13	12	4938	6320	775	91	53153
	なさる	2985	629	1420	0	371	13	538	7	1	1030	2461	181	22	9658
	御ーくださる	1044	208	1572	0	181	5328	7	3	9	1785	827	221	36	11221
	御ーだ・です	697	90	1481	0	437	35	4	1	0	464	623	177	7	4016
	御ーなさる	601	107	72	0	81	2	1	3	0	243	294	17	0	1421
	御ーになる	1895	448	418	0	1916	68	11	0	1	221	1101	97	7	6183
謙譲語	ていただく	2079	401	2288	0	4549	1085	12	0	5	1902	1974	340	56	14691
	御ーいたす	336	69	1534	0	1906	37	1	0	0	973	223	27	0	5106
	御ーいただく	456	90	289	0	1705	410	2	0	0	567	437	78	6	4040
	御ーする	3718	685	9929	0	4323	1371	20	4	15	4381	2988	682	73	28189
	御ー申し上げる	288	54	49	0	1350	56	1	0	0	186	166	14	1	2165
	申し上げる	54	7	2	0	79	14	2	0	0	29	34	2	0	223
総計		20269	3869	48253	0	17672	12204	648	31	43	16719	17448	2611	299	140066

3. 3 命令形の除外

尊敬語の「ーなさる」「ーくださる」は命令形の用例が極めて多い。「ーなさい」「しなさい」が直接的な命令形(「しろ」「せよ」)の代用として用いられ、依頼表現として「ーください」が用いられるためである。これらの用法は、形式上は尊敬語の形と一致するものであるが、すでに尊敬語とは異質なものになっていると考えられる。

形式別に見た命令形の分布は表3の通りである。表2の用例数をもとに命令形の割合を計算すると、「てくださる」の90.79%、「なさる」の86.04%、「御ーてくださる」の91.77%、「御ーなさる」の64.60%が命令形である。尊敬語のこれら4形式全体の89.83%が命令形となっている。

表3 各形式の命令形の用例数

		LB	OB	OC	OL	OM	OP	OT	OV	OW	OY	PB	PM	PN	総計
尊敬語	てくださる	4619	811	28623	0	683	3733	44	13	12	3913	5032	691	81	48255
	なさる	2434	533	1217	0	251	12	536	6	1	985	2159	157	19	8310
	御ーくださる	747	142	1496	0	123	5305	7	1	9	1592	623	217	36	10298
	御ーなさる	359	77	48	0	4	2	1	3	0	219	193	12	0	918
謙譲語	御ーいたす	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	5
	御ーする	11	3	0	0	1	0	0	1	0	2	3	1	1	23
	御ー申し上げる	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
総計		8172	1569	31384	0	1062	9052	588	24	22	6711	8012	1078	137	67811

このように、尊敬語形式の命令形は極めて数が多く、本来の敬語としての機能を失ったものであると考えられることから、敬語形式の分布を調査する上では、命令形を一括することには問題がある。そこで、以下の議論では、命令形の敬語形式は一律に除外することにする。これにより、用例数は総計約7.2万例、尊敬語が約1.8万例、謙譲語が約5.4万例となる。

3. 4 各形式のレジスター別調整頻度

表1の敬語形式の非命令形の用例数(表2の用例数から表3の用例数を減じたもの)を、各レジスターの総語数(記号等を除く)で除し、調整頻度(100万語あたりの用例数)にしたものが図2である。

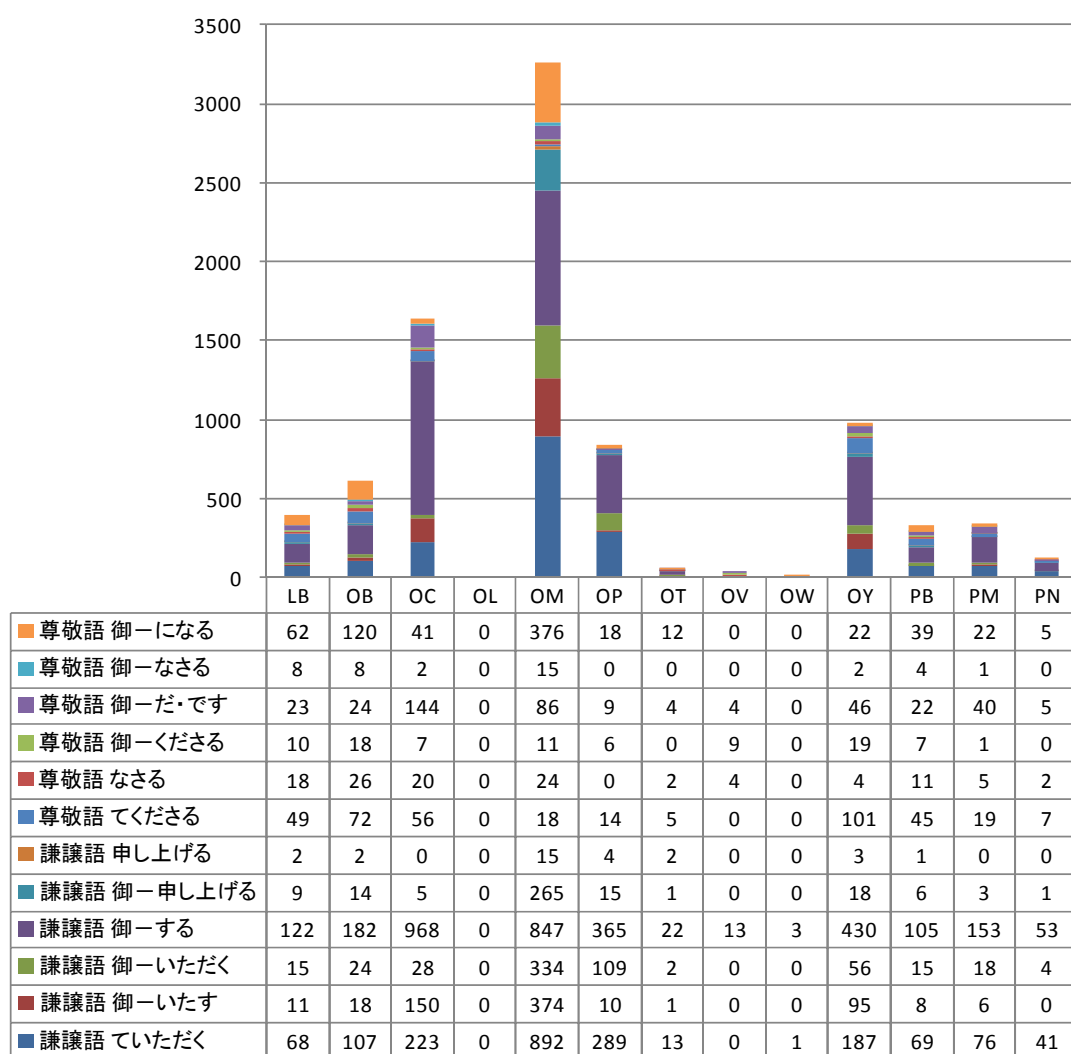


図 1 各形式のレジスター別調整頻度 (100 万語あたりの用例数)

敬語形式の出現頻度はレジスター差が極めて大きい。敬語形式が現れやすいものから順に、OM (国会会議録)、OC (Yahoo!知恵袋)、OY (Yahoo!ブログ)、OP (広報誌)、OB, LB, PB (書籍) となっている。敬語は対者的な表現であるから、OM のような討論や、OC のような問答で現れやすいことは自然である。

全体の頻度だけでなく、使用される形式にもレジスター差が存在する。謙譲語では、OC では「御-する」が多く、「ていただく」が少ない。尊敬語では、OM で「御-になる」が多く「てくださる」が少ない、PM (雑誌) や OC で「御-だ・です」が多い、OY では「御-になる」が少ない。

ラレルの尊敬用法

本発表では、助動詞「れる」「られる」の尊敬用法は調査対象外としたが、小山田・浅原・前川 (2012) は、BCCWJ のコアデータ (および国会会議録と「日本語話し言葉コーパス」CSJ の一部) における「れる」「られる」のレジスタごとの用法別用例数を調査している。この結果 (「表 6 レジスター別の意味判定結果」) をもとに、助動詞「れる」「られる」の尊敬用法の調整頻度 (100 万語あたり頻度) を計算すると表 4 のようになる。

この数字は、今回調査した敬語形式と比較して非常に使用頻度が高く、調査対象形式の全体を上回る。今回の調査範囲では「れる」「られる」を扱わなかったことで尊敬語が大幅

に欠落していることを確認しなければならない。

表4 助動詞「れる」「られる」尊敬用法の調整頻度(100万語あたりの用例数)

※小山田・浅原・前川(2012)にもとづく試算

	OC	OW	OY	PB	PM	PN	コア全体
「れる」「られる」尊敬用法	6345	25	2674	1034	806	136	140

3. 5 尊敬語・謙譲語とレジスター

図1の数値を元に、レジスターごとに謙譲語・尊敬語がどのような割合を占めるかをまとめた結果が図2である。

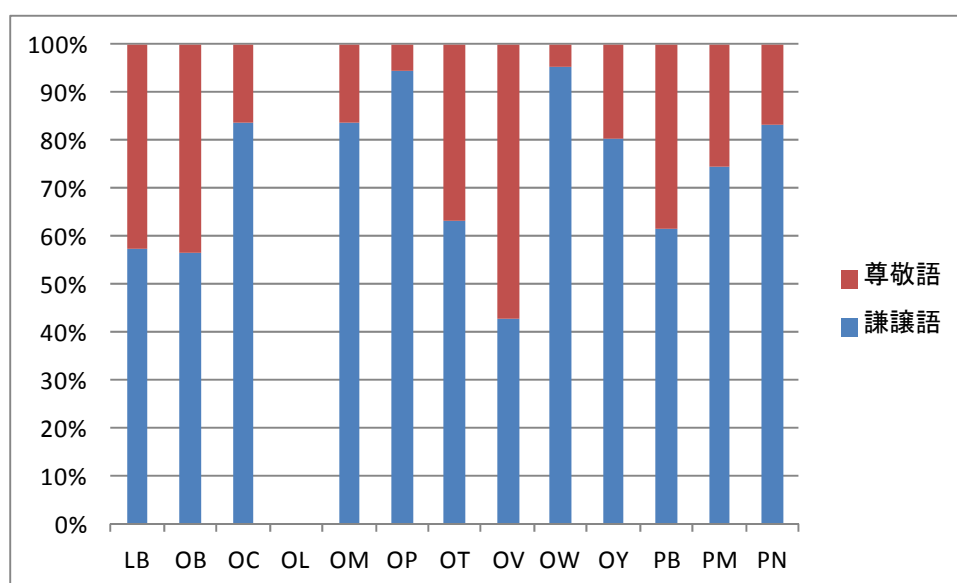


図2 レジスター別の尊敬語・謙譲語の割合

敬語の使用が多いOM(国会会議録)やOC(Yahoo!知恵袋)、OY(Yahoo!ブログ)では、謙譲語が8割程度となっている。書籍はOB(ベストセラー)、PB(出版)、LB(図書館)ともほぼ同じで謙譲語が6割前後となっている。

3. 6 動詞数あたりの頻度(敬語形式化率)

3.4節ではコーパスの総語数(短単位数)を用いて調整頻度を計算した(図1)。しかし、今回調査対象としている敬語形式は、動詞を元として成り立つものであるから、「全ての動詞」の用例数を基準にして調整頻度を計算することで、いわば「敬語形式化率」を測ることができると考えられる(ただし語彙的な敬語や「れる」「られる」が敬語の用例として含まれていない)。レジスターによって総語数に占める動詞の割合は大きく違う。動詞以外の語が多く含まれているレジスターでは、敬語形式化率は総語数による調整頻度よりも小さくなるはずである。

このような考えから、各形式の動詞数100万語あたりの頻度をまとめたものが図3である。図1と比較したとき特にOP(広報誌)の数値の伸びが顕著である。図1では、OM>OC>OY>OP>OBの順に頻度が高かったが、図3では、OM>OC>OP>OY>OBと順も入れ替わっている。

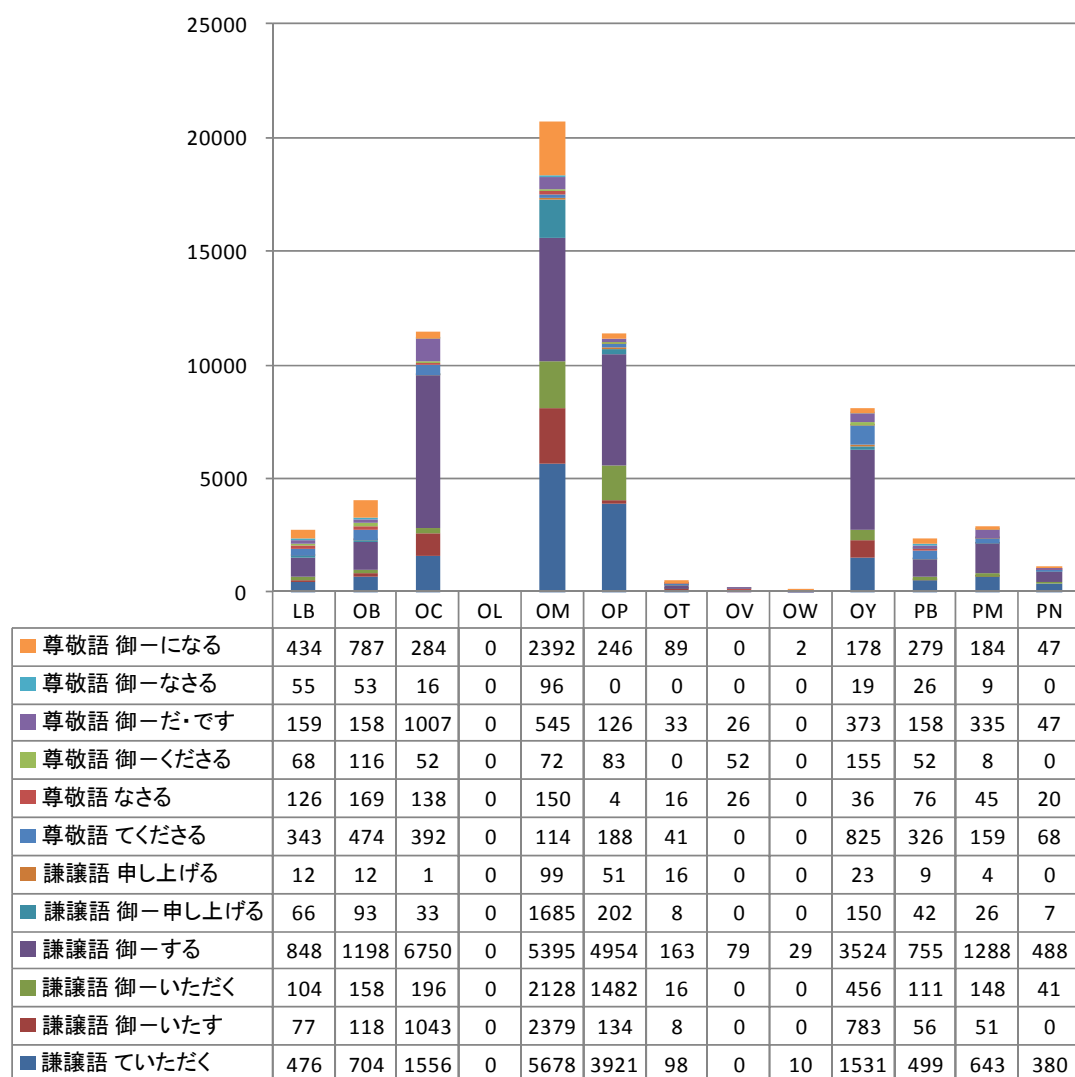


図 3 各形式のレジスター別調整頻度 (動詞 100 万語あたりの用例数)

4. 元となる動詞の語彙と敬語形式

4. 1 敬語形式と元の動詞の語種

各敬語形式がどのような動詞をもとにして成り立っているのかを語種の観点から調査した。例えば「御ーなさる」であれば、「お待ちなさる」のように「ー」部分が和語動詞の場合は和語とし、「御理解なさる」のようにサ変動詞の場合には、語幹 (BCCWJ では名詞) の語種によって分類した。結果を図 5 に示す。グラフは語種割合を表示している。

外来語のように、「御ー」が着く場合に利用できない形式もあるが、和語・漢語についてはいずれの形式も可能である。しかし、実際の用例数は形式ごとに大きな違いがある。特に和語の割合が高いものは、謙讓語「ーいただく」「御ーいたす」「御ーする」、尊敬語「ーくださる」「御ーだ・です」「御ーになる」である。逆に、謙讓語「ー申し上げる」、尊敬語「ーなさる」は漢語の割合が高い。

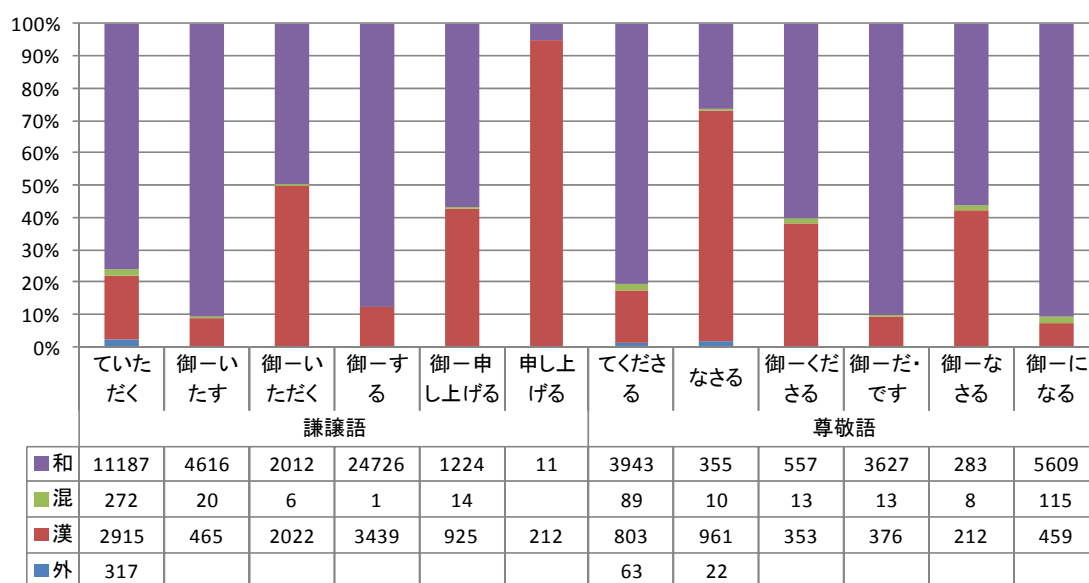


図 4 敬語形式と元の動詞の語種

4. 2 敬語形式と元の動詞語彙

続いて、各敬語形式がどのような動詞をもとにして成り立っているのかを、動詞語彙（見出し語）ごとに集計した。動詞異なり語数は極めて多いため、形式ごとに頻度上位 30 語を掲げる（表 5、表 6）。表中の名詞はサ変動詞語幹として使われていたものである。

表 5 尊敬語の元の動詞（頻度上位 30 語）

順位	くださる	なさる	御一くださる	御一だ・です	御一なさる	御一になる
1	来る 371	居る 44	許す 53	勧める 1846	出でる 68	考え 465
2	教える 323	心配 42	出でる 36	持つ 389	休む 32	出でる 331
3	する 309	来る 35	待つ 34	分かる 318	心配 24	分かる 249
4	言う 175	御免 30	了承 28	出でる 211	苦勞 22	見える 246
5	居る 113	結婚 26	越す 26	考える 209	返る 19	聞く 206
6	与える 85	言う 25	付き合う 18	有る 206	結婚 17	指摘 196
7	見る 78	する 24	教える 16	苦勞 112	話す 14	遣る 169
8	送る 70	苦勞 17	助ける 16	過ごす 106	利用 9	亡くなる 162
9	成る 68	為る 16	守る 15	承知 90	検討 9	帰る 153
10	読む 62	行く 15	賛同 15	呼ぶ 43	相談 9	書く 133
11	掛ける 60	御覧 15	読む 13	希望 30	指摘 7	持つ 122
12	応援 60	相談 14	伝える 13	思う 29	有る 5	思い 111
13	答える 58	反対 11	指導 12	探す 28	待つ 5	読み 106
14	聞く 58	約束 10	与える 12	忘れる 24	入る 5	話す 101
15	仰る 58	判断 10	可決 12	使う 16	答弁 5	使う 98
16	書く 52	答弁 10	参加 11	記憶 15	控える 5	会う 91
17	遣る 51	対処 10	回答 10	聞く 14	聞く 4	答え 88
18	話す 48	勉強 10	協力 10	聞き及ぶ 14	安心 4	出し 76
19	行く 46	見る 9	容赦 10	執心 14	遠慮 4	出掛ける 71
20	回答 43	利用 9	利用 9	待つ 13	勉強 4	尋ねる 64
21	付ける 40	質問 8	確認 9	利用 13	話 4	止める 62

22	紹介	38	出品	8	貸す	9	泊まる	12	遣る	3	触れ	62
23	喜ぶ	37	要求	8	話す	9	困る	12	出席	3	決める	59
24	入れる	36	遠慮	8	楽しむ	9	成る	11	許す	3	知る	52
25	為る	35	研究	8	尽力	9	立腹	10	会う	3	作る	50
26	説明	31	入院	8	送る	9	気付く	9	約束	3	調べ	48
27	取る	30	再婚	8	過ごす	9	住まう	8	渡す	3	戻る	45
28	見せる	30	出席	7	任せる	9	決まる	8	判断	3	認める	45
29	案内	30	我慢	7	教示	9	所望	8	仕事	3	休み	45
30	届ける	30	発表	7	出席	8	済む	7	調べる	3	有る	43

表6 謙譲語の元の動詞(頻度上位30語)

順位	ていただく		御ーいたす		御ーいただく		御ーする		御ー申し上げる		申し上げる ⁴	
1	教える	1643	願う	2668	答える	297	願う	11301	願う	455	感謝	101
2	する	1570	答える	587	理解	269	勧める	1914	答える	454	答弁	13
3	見る	445	伺う	299	分かる	219	聞く	1820	説明	307	説明	10
4	来る	352	尋ねる	168	利用	154	伺う	1543	礼	159	祈念	7
5	遣る	337	諮る	168	協力	108	話す	957	報告	101	質問	6
6	考える	254	説明	113	考える	102	紹介	806	答弁	99	要望	5
7	クリック	186	聞く	92	答弁	100	待つ	745	詫びる	76	失礼	5
8	行く	166	報告	88	越す	93	会う	733	祈る	69	報告	4
9	読む	164	勧める	75	説明	87	尋ねる	705	話す	42	提出	3
10	見せる	157	届ける	63	話す	81	答える	531	待つ	31	注文	3
11	理解	139	紹介	57	教える	75	邪魔	363	挨拶	26	拝察	3
12	分かる	128	掛ける	51	検討	66	送る	360	質問	25	提案	2
13	取る	128	案内	48	読む	63	届ける	342	提案	22	期待	2
14	言う	128	断る	41	指摘	62	伝える	341	案内	19	提供	2
15	置く	128	送る	39	述べる	58	掛ける	271	断る	14	尊敬	2
16	知る	127	話す	32	出でる	58	馳走	229	遠慮	13	要請	2
17	出す	125	伝える	25	審議	55	説明	214	察する	13	歓迎	2
18	作る	123	待つ	21	連絡	53	返す	194	紹介	12	発表	2
19	聞く	121	連絡	21	楽しむ	52	案内	177	尋ねる	11	推挙	2
20	収める	116	受ける	20	示す	49	渡す	177	祈念	9	反論	2
21	成る	114	質問	20	許す	49	任せる	165	伺う	8		
22	参加	98	教える	19	紹介	43	見せる	150	連絡	8		
23	送る	92	察する	19	付き合う	42	受ける	137	伝える	7		
24	掛ける	92	返す	17	待つ	41	断る	128	返事	7		
25	検討	91	持つ	16	支払う	40	出掛ける	126	要望	7		
26	持つ	89	会う	16	参加	40	迎える	121	相談	6		
27	付ける	89	用意	16	議論	37	教える	119	披露	6		
28	答える	88	見受ける	15	聞く	36	預かる	113	注意	6		
29	思う	88	預かる	14	持つ	36	相談	104	期待	6		
30	為る	86	邪魔	13	集まる	36	連絡	88	指摘	4		

⁴ 頻度1となる21位以下は省略した。

現時点では用例のクリーニングが完全でないため、表5・表6には、「おすすめです」のような美化語と考えられる用例や、「お出でなさる」「ご覧なさる」などの語彙的な敬語形式、「おでかけする」「お礼申し上げる」などの固定的な表現の一部が含まれている。

5. 「(御)ー(て)くださる」と「(御)ー(て)いただく」

5. 1 「くださる」と「いただく」の用例数の非対称性

尊敬語「ーてくださる」と謙譲語「ーていただく」は、いずれも恩恵のやりとりを伴う表現で、ちょうど視点を入れ替えた関係となるため、通常、相互に置き換えが可能となる。一般に「Aがーしてくさる」は「Aにーしていただく」と言い換えられる。しかし、実際の用例数には偏りがある。これを確認するため、「御ーくださる」「てくださる」と「御ーいただく」と「ていただく」の4形式に限って集計し直したものが図5である。

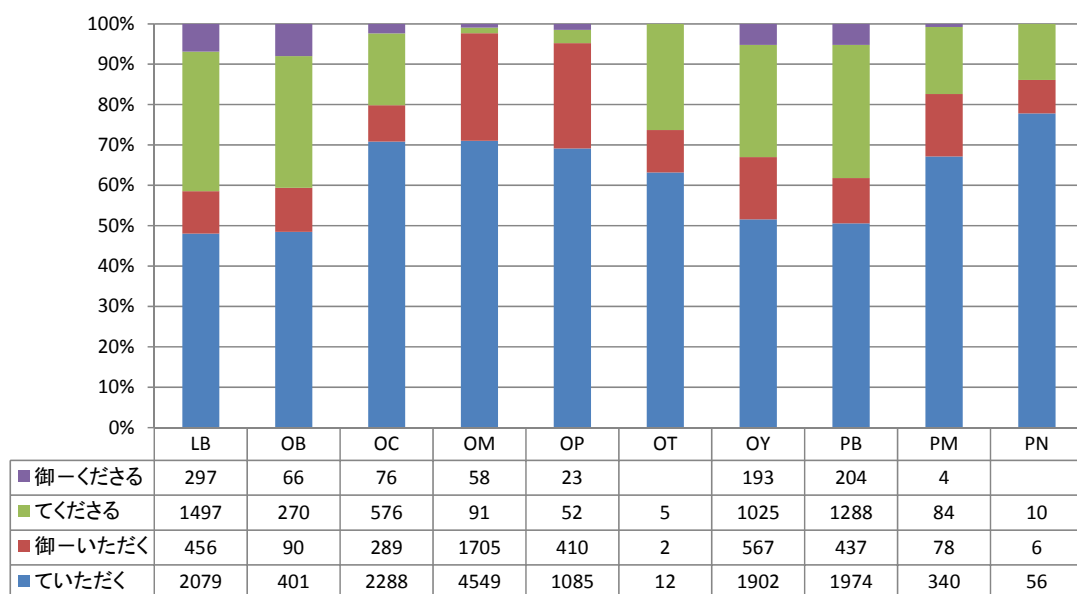


図5 「ーくださる」と「ーいただく」の用例数

文化庁文化審議会(2007)『敬語の指針』はこうした用法について、「どちらの言い方も適切に敬語が用いられているもの」とした上で、「御利用いただく」の使い方には、問題があると感じている人たちもいる」とする。しかしコーパスの用例数の上ではどのレジスターにおいても謙譲語の「いただく」系が多く、尊敬語「くださる」は少ない。中でもOM(国会会議録)とOP(広報誌)では「いただく」系が多く95%を超えている。書籍(LB, OB, PB)は、3つのレジスターとも同じような割合であり、「いただく」系は約60%で、比較的「くださる」系が多い。

5. 2 「御」の不使用

表1の調査対象には含めなかったが、漢語サ変動詞から作られる「御ーくださる」「御ーいただく」に近いものとして、それぞれ「御」が付かない「〈漢語〉くださる」「〈漢語〉いただく」という形式が用いられる場合がある。菊地(1997)はこの用法について「誤りと言えるかどうかはともかく、あまり一般的な言い方ではない」(p.210)としている。

この形式について、BCCWJにおける用例数を調査した。粗頻度と調整頻度を表7に挙げる。

表7 「〈漢語〉くださる」「〈漢語〉いただく」の用例数と調整頻度(100万語あたり)

		LB	OB	OC	OM	OP	OY	PB	PM	PN
〈漢語〉 いただく	用例数	22	3	129	73	125	105	38	11	4
	調整頻度	0.72	0.80	12.58	14.31	33.29	10.30	1.33	2.47	2.92
〈漢語〉 くださる	用例数	16	2	180	1	142	66	33	3	0
	調整頻度	0.53	0.53	17.55	0.20	37.81	6.47	1.16	0.67	0.00

この形式の用例数が多かった語は次の通りである(括弧内は用例数)。

「－いただく」

回答(40), 連絡(28), 落札(26), 参加(24), 協力(17), 指摘(11), 確認(11), 答弁(11), 検討(10), 理解(10), 応募(9), 納付(9), 応援(9), 賛同(9), 利用(7), 評価(7), 説明(7)

「－くださる」

参照(79), 連絡(68), 回答(28), 参加(27), 注意(25), 利用(24), 確認(21), 持参(14), 相談(10), 電話((9), 意見(8), 応募(7), 送付(5), 紹介(5)

6. まとめ

以上、BCCWJを利用して現代語の敬語形式の用法について調査結果を見てきた。現代語の敬語形式について、大規模なコーパスに基づいて数量的な面から検討した研究はこれまでに行われておらず、敬語形式の使用頻度や使用域、元となる動詞の語彙の違いは、今回はじめて計量的に記述された。現代語の敬語形式の用法記述にとっても、こうした計量的な面からの研究が資するところがあると考ええる。現時点では粗い調査に過ぎず十分な分析も行えなかったが、今回得られたデータを基礎として、今後、詳細な研究を進めていきたい。

文 献

- 小山田由紀・柏野和佳子・前川喜久雄(2012)「助動詞レル・ラレルへの意味アノテーション作業経過報告」第2回コーパス日本語学ワークショップ予稿集, pp.59-68
- 小木曾智信・中村壮範(2011)『『現代日本語書き言葉均衡コーパス』形態論情報データベースの設計と実装 改訂版』JC-U-10-01
- 菊地康人(1997)『敬語』講談社
- 文化庁文化審議会(2007)『敬語の指針』
- http://www.bunka.go.jp/bunkashingikai/soukai/pdf/keigo_tousin.pdf